

2013年3月期 第2四半期 決算説明会



2012年11月5日

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

1

<はじめに>

・2012年度第2四半期決算のご報告と今年度の見通しおよび事業戦略についてご説明いたします。

2012年度上期 連結業績

(百万円)

	2013年3月期 上期実績	2012年3月期 上期実績	増減率
売上高	103,038	103,703	(0.6%)
デバイス事業	89,082	91,161	(2.3%)
システム事業	13,955	12,541	+11.3%
売上総利益	8,005	8,082	(1.0%)
販管費	7,487	7,488	(0.0%)
営業利益	517	593	(12.8%)
経常利益	377	347	+8.6%
四半期純利益	(106)	131	-

www.marubun.co.jp

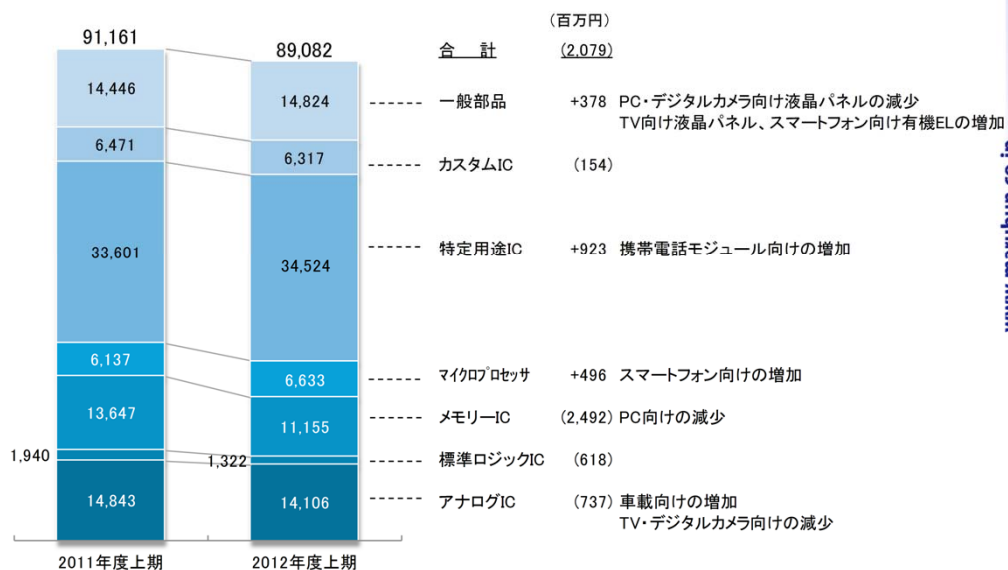
2

丸文株式会社

<2012年度第2四半期決算について>

- ・上半期は、スマートフォンやタブレットPCに関わる需要が増加したものの、TVやデジタルカメラ、PCなどの需要低迷が続きました。
- ・その結果、当第2四半期の連結売上高は、前年同期に比べ0.6%減の1,030億円となりました。
- ・利益面では、売上総利益および営業利益は前年同期並みを確保、経常利益も前年同期並みの3億円となりました。
- ・一方、四半期純利益は、仕入先への和解金や投資有価証券評価損を特別損失に計上した結果、1億円の純損失となりました。

デバイス事業 品目別売上高実績



www.marubun.co.jp

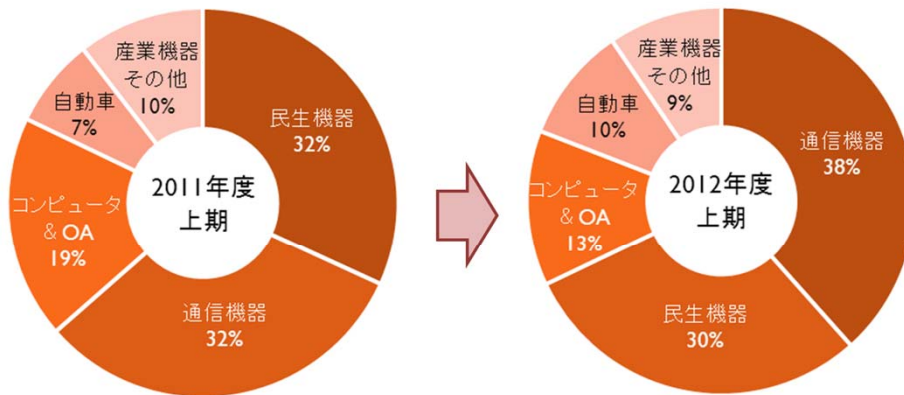
3

丸文株式会社

<セグメント別: デバイス事業の品目別売上高>

- ・デバイス事業の売上は、前年同期に比べ2.3%減の890億円となりました。
- ・アナログICは、車載向けが増加したものの、TVやデジタルカメラなどの民生機器向けが減少しました。
- ・メモリーICの減少は、PC向けDRAMの減少によるものです。
- ・マイクロプロセッサは、スマートフォン向けのモバイルプロセッサが増加しました。
- ・特定用途ICの増加は、携帯電話モジュール向けの需要増によるものです。
- ・一般部品は、PCやデジタルカメラ向けの液晶パネルが減少した一方で、スマートフォン向けの有機ELやタッチパネルが増加しました。

デバイス事業の用途別売上高



通信機器 → 携帯電話モジュールやスマートフォン向けが増加
 民生機器 → デジタルカメラとTV向けが減少
 コンピュータ&OA → PC向けメモリーICが大幅に減少
 自動車 → ナビゲーションやエンジンコントロール向けが増加

丸文株式会社

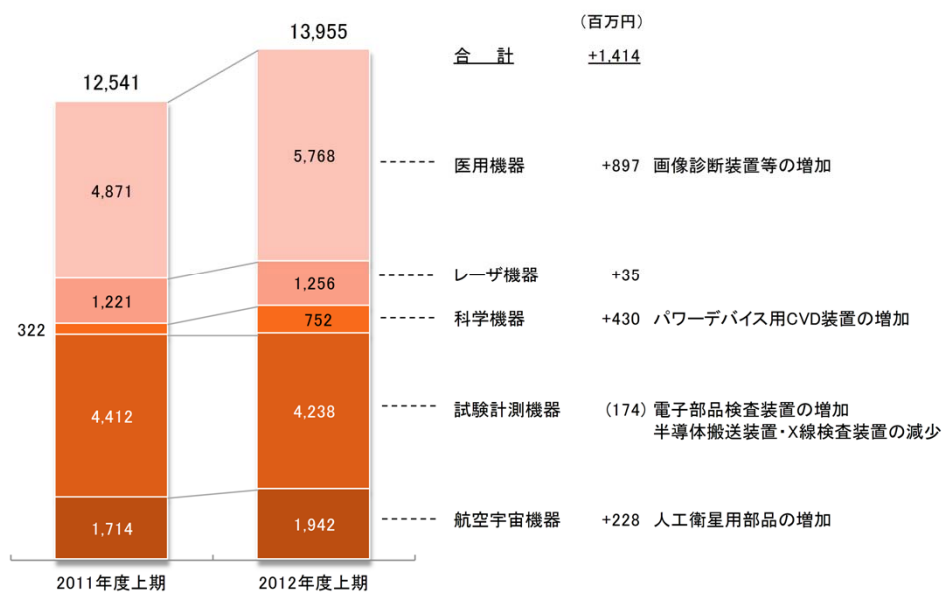
4

www.marubun.co.jp

<セグメント別: デバイス事業の用途別売上高>

- ・用途別では、通信機器が38%、民生機器が30%、コンピュータ&OAが13%、自動車向けが10%の売上構成比となりました。
- ・通信機器は、携帯電話モジュールやスマートフォン向けが増加しました。
- ・民生機器は、デジタルカメラとTV向けが減少しました。
- ・コンピュータ&OAは、PC向けメモリーICが大幅に減少しました。
- ・自動車向けでは、ナビゲーションやエンジンコントロール向けが増加しました。

システム事業 品目別売上高



www.marubun.co.jp

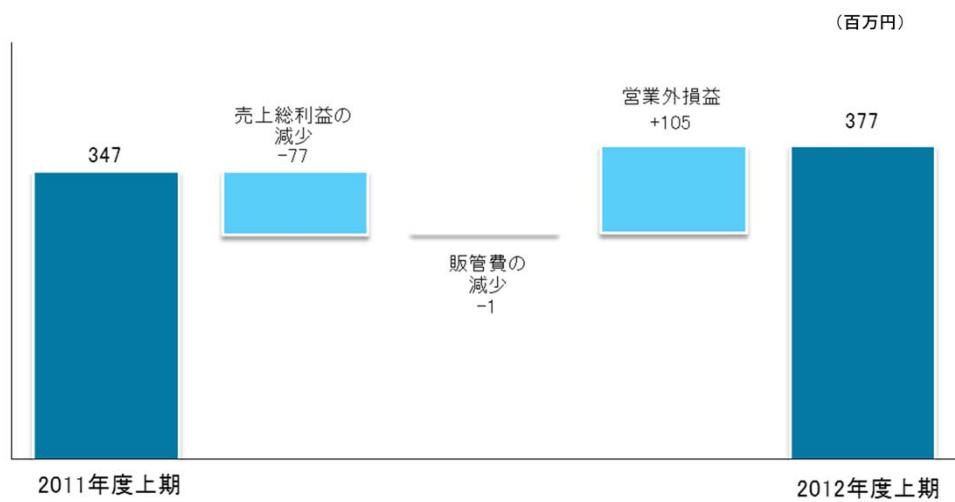
丸文株式会社

5

<セグメント別:システム事業の品目別売上高>

- ・システム事業は、売上は前年同期に比べ11.3%増の139億円となりました。
- ・航空宇宙機器は、人工衛星用部品が増加しました。
- ・試験計測機器は、スマートフォンやタブレット用の電子部品検査装置が増加したものの、半導体搬送装置やX線検査装置が減少しました。
- ・科学機器は、パワーデバイス製造用のCVD装置が増加しました。
- ・医用機器の増加は、画像診断機器の増加によるものです。

経常利益の増減要因



【売上総利益】 売上総利益率 2011年度上期 7.8% → 2012年度上期 7.8%
 【営業外損益】 支払利息の減少 2011年度上期 261 → 2012年度上期 188 △73

6

丸文株式会社

<経常利益の増減要因>

- ・売上総利益は、売上の減少に伴い7千万円減少しました。
- ・売上総利益率も、前年同期並みの7.8%となりました。
- ・販管費は、人件費が増加しましたが、経費削減に努め、前年同期並みを維持し、営業外損益は、支払利息の減少等により1億円改善しました。

連結貸借対照表

(百万円)	2012/9/30	2012/3/31	増減額
流動資産合計	95,577	110,554	(14,977)
現金及び預金	12,905	18,123	(5,218)
受取手形及び売掛金	52,763	66,611	(13,848)
商品及び製品	24,022	22,666	1,356
仕掛品	118	51	67
繰延税金資産	1,258	1,198	60
その他の流動資産	4,584	1,934	2,650
貸倒引当金	(75)	(31)	(44)
固定資産合計	10,887	10,491	396
資産合計	106,464	121,045	(14,581)
流動負債合計	52,021	66,163	(14,142)
支払手形及び買掛金	38,546	42,506	(3,960)
短期借入金	8,925	18,781	(9,856)
1年内返済予定の長期借入金	1,534	1,534	0
1年内償還予定の社債	46	48	(2)
賞与引当金	794	718	76
その他の流動負債	2,174	2,574	(400)
固定負債合計	18,245	18,586	(341)
社債	—	21	(21)
長期借入金	16,054	16,072	(18)
退職給付引当金	1,526	1,602	(76)
役員退職慰労引当金	230	492	(262)
その他の固定負債	433	398	35
負債合計	70,267	84,750	(14,483)
純資産合計	36,196	36,295	(99)
負債純資産合計	106,464	121,045	(14,581)

www.marubun.co.jp

丸文株式会社

7

<貸借対照表の変動要因>

- ・総資産は、主に売上債権の減少によって、前年末に比べ145億円の減少となりました。
- ・流動資産は、売上債権や現預金が減少する一方、在庫や有価証券が増加しました。
- ・負債は、仕入債務や短期借入金の減少により、前年度末に比べ144億円減少しました。

連結キャッシュフロー計算書

(百万円)	2013年3月期	2012年3月期	主な増減理由
	上期実績	上期実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,377	(3,103)	
税引前当期純利益	(6)	390	
減価償却費	256	252	
持分法による投資損益	(43)	(31)	
売上債権の増減額	13,898	(11,070)	
たな卸資産の増減額	(1,387)	(1,856)	
仕入債務の増減額	(3,914)	10,024	
その他	80	(344)	
小計	8,884	(2,635)	
利息及び配当金の受取額	36	32	
利息の支払額	(198)	(263)	
法人税等の支払額	(377)	(279)	
法人税等の還付額	33	42	
投資活動によるキャッシュ・フロー	(92)	(6,084)	
財務活動によるキャッシュ・フロー	(10,228)	2,739	短期借入金の純減△9,917百万円
現金及び現金同等物の期末残高	15,905	9,443	

www.marubun.co.jp

丸文株式会社

8

<キャッシュフローの状況>

- ・当第2四半期の営業キャッシュフローは、83億円の資金の流入となりました。
- ・これは主に、売上債権の減少によるものです。
- ・投資キャッシュフローは、9千万円の流出となりました。
- ・財務キャッシュフローは、短期借入金の純減などにより102億円の資金の流出となりました。
- ・以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は159億円となりました。

2012年度 連結業績予想

(百万円)

	2013年3月期 予想	2012年3月期 実績	増減率
売上高	214,000	242,708	(11.8%)
デバイス事業	178,050	209,000	(14.8%)
システム事業	35,950	33,707	+6.7%
売上総利益	17,650	18,025	(2.1%)
販管費	14,500	15,183	(4.5%)
営業利益	3,150	2,842	+10.8%
経常利益	3,050	2,375	+28.4%
当期純利益	1,400	1,017	+37.7%

www.marubun.co.jp

9

丸文株式会社

<2012年度通期の見通し>

- ・下期は、スマートフォン向けビジネスの伸長が見込まれる一方で、消費低迷によるPCや民生機器の需要低迷および産業機器などの設備投資の減少により、厳しい事業環境が予想されます。そのため、通期の業績予想を修正いたしました。
- ・連結売上高は、前年度に比べ11.8%減の2,140億円となる見込みです。
- ・営業利益は10.8%増の31億円、経常利益は28.4%増の30億円を見込んでおります。
- ・当期純利益は、上期に仕入先への和解金2億8千万円、投資有価証券評価損9千万円を特別損失に計上しましたが、前年度に比べ37.7%増の14億円となる見通しです。
- ・なお、10月5日付で公表しました希望退職者の募集に伴い、退職金の特別加算金等を特別損失として計上する見込みですが、応募者数未定のため、今回の業績予想には反映していません。
- ・詳細が決まり次第、速やかにお知らせします。

2012年度 連結業績予想(期初予想比)

(百万円)

	2013年3月期 今回予想	2013年3月期 期初予想	増減率
売上高	214,000	238,000	(10.1%)
デバイス事業	178,050	199,750	(10.9%)
システム事業	35,950	38,250	(6.0%)
売上総利益	17,650	18,800	(6.1%)
販管費	14,500	15,650	(7.3%)
営業利益	3,150	3,150	±0%
経常利益	3,050	3,050	±0%
当期純利益	1,400	1,550	(9.7%)

www.marubun.co.jp

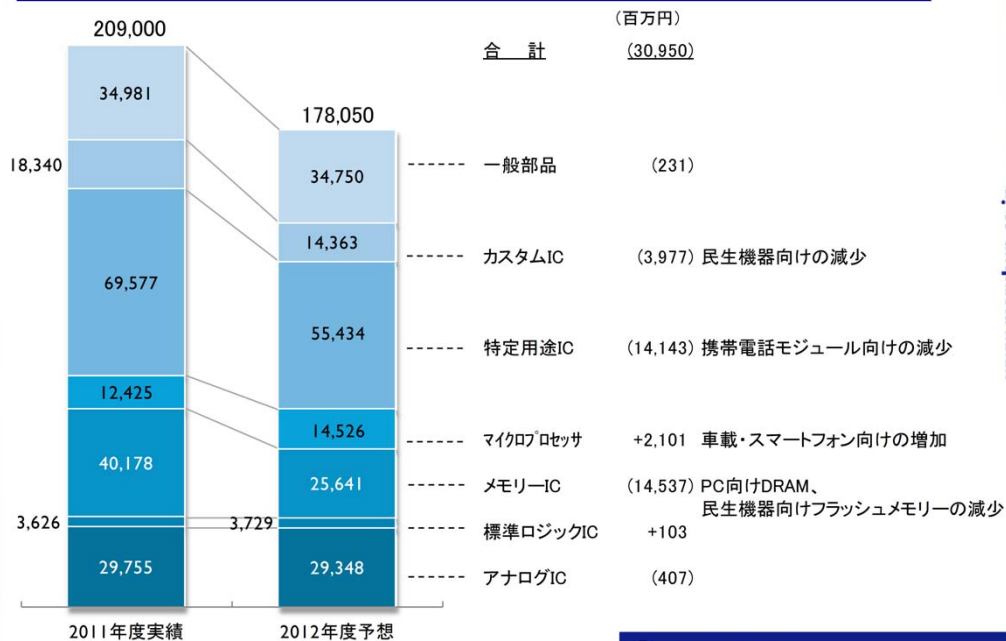
10

丸文株式会社

<2012年度の通期の見通し/期初予想との比較>

- ・修正した業績見通しを、期初の計画と比較しますと、売上高は期初計画に比べ10.1%の下方修正となります。
- ・これは、携帯電話モジュール向けICが期初計画よりも増加する見通しであるものの、TV向けの液晶パネルやスマートフォン向けのメモリが低調なことによるものです。
- ・売上減少に伴い売上総利益も11億円下回る見通しですが、事務所移転によるコスト圧縮や情報システム関連経費、営業活動経費の抑制により販管費が減少するため、営業利益および経常利益は据え置きました。
- ・一方、当期純利益については、上期に計上した特別損失により、期初計画を1億5千万円下方修正いたしました。

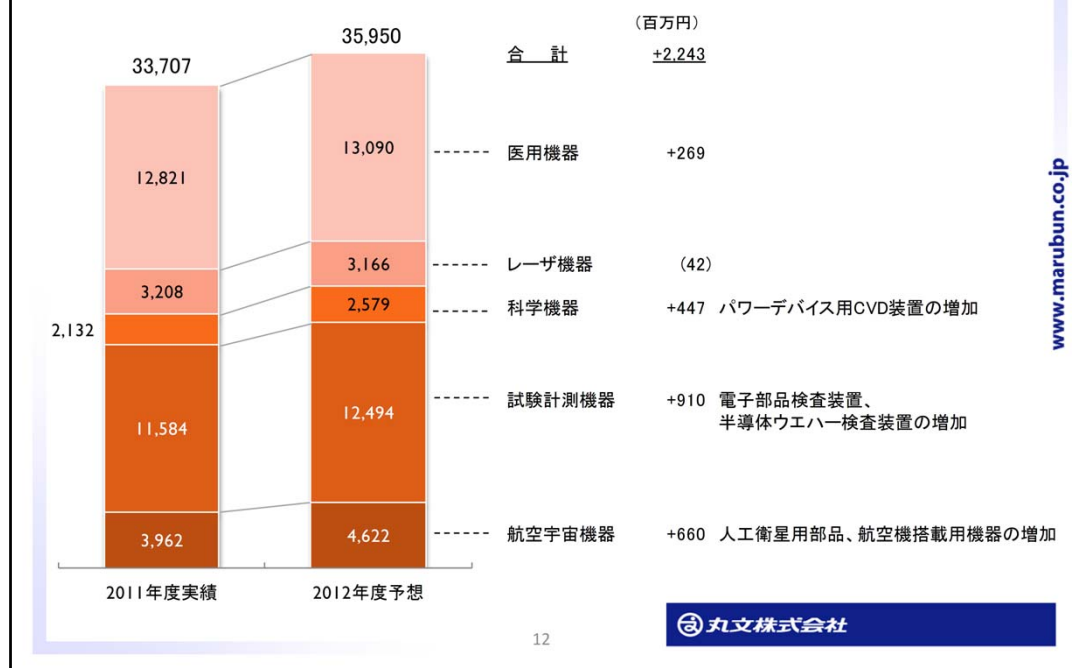
デバイス事業 品目別売上高予想



<セグメント別: デバイス事業の売上高予想>

- ・デバイス事業では、前年度に比べ309億円減少の1,780億円を予想しております。
- ・メモリーICは、PC向けのDRAMや民生機器向けのフラッシュメモリーが減少する見込みです。
- ・マイクロプロセッサの増加は、スマートフォンや車載向けの増加によるものです。
- ・特定用途ICは、携帯電話モジュール向け、カスタムICは民生機器向けのICの減少を見込んでおります。

システム事業 品目別売上高予想



<セグメント別:システム事業の売上高予想>

- ・システム事業では、試験計測機器を中心に前年度に比べ22億円の売上の増加を見込んでおります。
- ・航空宇宙機器は、人工衛星用部品や航空機搭載用機器が増加する見込みです。
- ・試験計測機器は、電子部品向け検査装置や半導体のウエハー検査装置の増加を見込んでおります。
- ・科学機器の増加は、パワーデバイス製造用のCVD装置の増加によるものです。

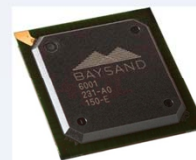
デバイス事業戦略

■ ワールドワイドでのシェア拡大

- サプライヤが重視するアクティビティをKPI化し戦略共有
- 品揃え、技術支援、海外サポートを強みに採用拡大
- 商権の積極的な拡大

■ Demand Creation機能の強化

通信機器	FAEを拡充し、スマートフォンやLTE設備で採用促進
車載	ECUやカーナビ中心にデザイン・イン活動を展開
映像機器	製品をモジュール化して顧客ニーズに対応



BaySand社
ストラクチャードASIC製品

www.marubun.co.jp

■ 新規商材の開発推進

- 米国BaySand社：国内総代理店としてカスタムICのラインカードを強化
- 台湾NexPower社：太陽光パネルがメガソーラーで採用
- その他：受動部品、プリント基板、エネルギー・環境分野の商品開発を推進

13

丸文株式会社

<デバイス事業戦略>

- ・デバイス事業では、採算性の改善を図りつつ、「ワールドワイドでのシェアの拡大」「Demand Creation機能の強化」「新規商材の開発推進」に取り組んでおります。
- ・「ワールドワイドでのシェアの拡大」は、当社取扱シェアを高めるための活動を積極的に展開しております。
- ・サプライヤとの戦略共有を図るとともに、お客様に対しては、品揃えや技術サポート、海外生産移管の支援や物流機能などの強みを訴求し、当社取扱製品の採用拡大に取り組んでおります。
- ・10月には、東京・江東区にあった物流センターを、千葉県成田空港近隣に移転しました。これにより、大規模地震の被災リスクの低減と一層の物流品質の向上が図れるものと期待しております。
- ・これらの活動により、新規商権の獲得に繋がっており、今後ますます取り組みを積極化していきたいと考えております。
- ・「Demand Creation機能の強化」では、FAE機能の強化やモジュール化など、ターゲット市場や製品の特徴に応じた需要の掘り起こしに取り組んでおります。
- ・通信機器向けには、FAEを拡充し全国展開した結果、スマートフォンやLTE設備向けの採用が進みました。
- ・車載向けでは、マイコンなどの製品を中心に、ECUやカーナビゲーションへのデザインイン活動を展開しています。
- ・映像機器向けには、お客様の開発期間短縮のニーズに対応し、モジュール化した製品を提案し、採用が広がっております。
- ・「新規商材の開発推進」では、カスタムICや半導体以外のラインカードの拡充を進めています。
- ・カスタムICでは、米国のASICベンダーであるBaySand社の国内総代理店として同社のストラクチャードASICの販売を開始しました。
- ・ネクスパワー社の太陽光パネルも、メガソーラー向けなど、採用実績を積上げております。
- ・今後は、受動部品やプリント基板などの商品開発を進めるとともに、エネルギーや環境の分野向けでも一層の品揃えの拡充に取り組んでまいります。

システム事業戦略

■ ターゲット市場での取り組み

半導体・ 電子部品	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォン、タブレット向け電子部品検査装置の販売拡大 ● 薄膜ウエハー検査装置、X線検査装置、パワーデバイス用CVD装置も受注が好調 ● 顧客の海外工場へのICハンドラー販売に加え、フォーサイトテクノによる現地エンジニアリングサポートを推進
情報通信・ 光学部品	<ul style="list-style-type: none"> ● Symmetricom社タイムサーバをはじめ、通信インフラ向け商品を拡充 ● 独First Sensor社の光学センサーを計測機器メーカーに販売開始 ● 米国Excelitas社のランプ製品が医療機器・レーザ加工装置向けに拡販
医用機器	<ul style="list-style-type: none"> ● シーメンス社大型画像診断装置を資本参加した医療機器商社と協業し販路を拡大 ● メンテナンス業務の拡大による収益安定とリピート、置き換え需要の取り込み

www.marubun.co.jp

14

丸文株式会社

<システム事業戦略>

- ・システム事業では、成長市場に密着してお客様固有のニーズを実現する付加価値商品の開発と提案を推進し、収益力の強化と事業の拡大に取り組んでおります。
- ・「半導体市場」向けでは、スマートフォンやタブレットPC向けの電子部品検査装置が計画を上回る勢いで受注拡大しています。
- ・極薄ウエハーの検査装置もリピートオーダーを積み上げており、X線検査装置についても赤外線解析装置と組み合わせ、検査時間の短縮と精度向上を図る提案で、受注が増加しております。
- ・Aixtron社の薄膜装置も、LED製造向けに代わり、パワーデバイス製造向けの引合いが順調に伸びております。
- ・ICハンドラーでは、お客様の海外工場への販売に加え、当社子会社のフォーサイトテクノのネットワークを活用し、現地におけるエンジニアリングサポートを開始しています。
- ・今後は、この様なお客様の海外工場への取り組みを、電子部品検査装置等の他の製品に広げて、海外ビジネスを拡大していきたいと考えています。
- ・「情報通信市場」ですが、通信インフラ投資の拡大を背景に、米国Symmetricom社のネットワークタイムサーバが好調に推移しております。今後もパートナー企業との協業や周辺製品のラインナップ拡充により、この市場におけるシェア拡大を目指してまいります。
- ・「光学部品のOEMビジネス」では、新たにドイツのFirst Sensor社と代理店契約を締結し、計測機器メーカー向けに光学センサー部品の販売を開始し、既に試作品での受注が始まっております。
- ・米国Excelitas社のランプ製品も、医療機器やレーザ加工装置に用いる光源としての引合いが増えています。
- ・北陸三県を中心に事業展開している「医用機器」は、資本参加した新潟県の医療機器商社と協業し、シーメンス社の大型画像診断装置の販路拡大を進めるとともに、メンテナンス業務の拡大により、収益の安定とリプレース需要の取り込みに注力しております。

株主還元

■ 配当予想

	2012年3月期	2013年3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	12円	15円
中間配当	5円	6円
期末配当	7円	9円

www.marubun.co.jp

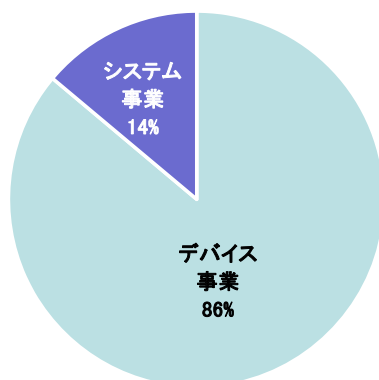
<株主還元>

- ・2012年度の配当金は、初の計画通り、中間配当6円、期末配当9円、合わせて年間で15円を予定しております。
- ・今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。

丸文について

会社概要

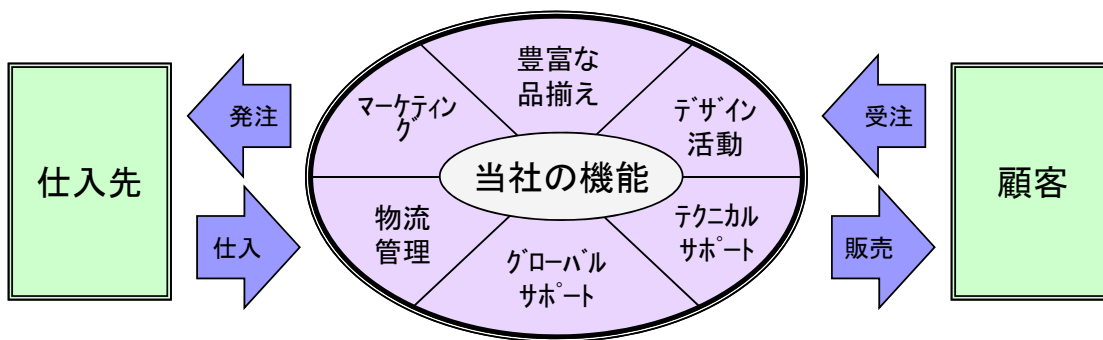
- 設立 : 1947年7月
- 資本金 : 6,214 百万円
- 事業内容 : 最先端エレクトロニクス機器・部品の販売
- 本社所在地 : 東京都中央区日本橋大伝馬町8-1
- 連結売上高 : 242,708百万円 (2011年度)
- 従業員数 : 1,345人(2012年3月末)



セグメント別
売上構成比

デバイス事業の特徴と強み

- 800社を超える顧客基盤
- TI・Samsung・Broadcom等の有力仕入先と幅広い商品群
- 商品提案からハード/ソフト開発、回路設計までの技術サポート
- Arrow社との提携によるグローバル販売ネットワーク



丸文株式会社

www.marubun.co.jp

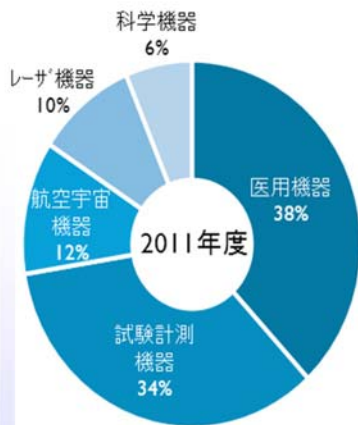
デバイス事業の主要取扱い商品

	Application						Supplier									
	Communication Equipment	Consumer Equipment	Computer & OA	Automobile	Industrial Equipment	Ashih Kasei Microdevices	Broadcom	Emerson	Freescale	International Rectifier	Maxim	Triquint	Samsung	Seiko Epson	Texas Instruments	Zoran
半導体																
アナログIC	Analog	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Discrete	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
標準ロジックIC	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
メモリーIC	DRAM	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Flash	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マイクロプロセッサ	MPU, MCU	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	DSP	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
特定用途IC	ASSP	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Display Driver	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	DMD	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	LED	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カスタムIC	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
一般部品																
液晶パネル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
有機EL	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
水晶デバイス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ノートコンピュータ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

www.marubun.co.jp

システム事業の特徴と強み

- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据付保守まで一貫した高レベルの技術サポート



分野	主要取扱商品	主要仕入先
医用機器	画像診断機器	島津製作所, シーメンスジャパン, コニカミノルタルスクエア
	人工透析機器	日機装, 旭化成ケルメデイカル, カネカメディックス
試験計測機器	検査装置・試験計測器	ユニハイトシステム, アキム, DCGシステムズ, Chroma
	製造装置・組立装置	セイコーエプソン, Aurigin Technology, 日本アビオニクス
航空宇宙機器	高信頼性部品、計測・センサ	Tele Communication Systems, Plascore
	航空関連機器, 高周波電子機器	AAI, CPI, L3 Communications
	レーザー光特性計測器・光学計測装置	Lavision, LTB Lasertechnik
レーザー機器	半導体レーザー・レーザー加工機	Laserline, nLight, OSI Laser Diode
	ネットワーク・光学部品	Symmetricom, Calnex Solutions, EXFO, Excelitas Technologies
科学機器	MOCVD装置, in-situモニタリングシステム	AIXTRON, LayTec

www.marubun.co.jp

丸文株式会社

システム事業の主要取扱い商品



Aixtron AG (ドイツ)
MOCVD装置



株式会社ユニハイトシステム
X線検査装置



Symmetricom Inc. (米国)
ネットワークタイムサーバー



Chroma ATE, Inc. (台湾)
LEDインスペクションシステム



Laserline GmbH (ドイツ)
加工用半導体レーザー装置



株式会社島津製作所
CTスキャンシステム

www.marubun.co.jp

丸文株式会社